

日本油化学会 界面実践講座 2017

これまで開催してまいりました「アドバンスセミナー（界面）」「界面活性剤評価・試験法セミナー」を、参加者の皆様のアンケート等をもとに、開催時期や内容を大幅に見直し、より実践的に、より皆様のお役にたてる講座を目指してリニューアルいたしました。

新しい界面実践講座では、企業の方から実際の製品開発の例もお話いただき、また、講師の先生方に直接ご相談できる時間を大幅に増やしております。

フレッシュマンセミナーで基礎を学んだ後、実際に製品開発を担当されている中堅社員・若手リーダーに向けて、「界面」にかかわる商品開発に役立つ知識、考え方、ヒントを提供するセミナーとして再出発いたします。それぞれの分野で第一人者の講師をお招きし、最近のご研究内容やトピックスについて講演をしていただきます。講演の後には、講師の先生方に個別に直接質問頂ける時間を設けております。講演内容はもちろん、実務の中での疑問や知りたいことを先生方に教えていただけるチャンスです。現在の疑問を解消し、ステップアップしませんか？

皆様のご参加をお待ちしております。

主 催 公益社団法人 日本油化学会

会 期 平成29年(2017) 7月 13日(木)、14日(金)

会 場 油脂工業会館9階会議室 (〒103-0027 東京都中央区日本橋3-13-11)

プログラム (演題および講師)

第1日 7月13日(木)

1. 処方設計のための多成分界面活性剤混合溶液の理解

界面活性剤を含む溶液やエマルションを用いた処方設計のために必要な、複数の界面活性剤の混合、添加物(油剤、ポリオールなど)の共存などの溶液物性・界面物性、相挙動に対する影響について理解を深めるように解説します。

横浜国立大学大学院 荒牧 賢治氏 9:30~10:30

2. 基礎から学ぶ濡れ・泡・洗浄

界面活性剤の応用物性・性能の中から、界面自由エネルギーと接触角の関係から濡れ現象を、起泡性試験と泡の安定生成決定要素との関係から起泡・消泡を、各種試験法と除去メカニズムの関係から洗浄について説明する。

横浜国立大学大学院 大矢 勝氏 10:35~11:35

質問タイム 11:35-12:05 (昼食・休憩 11:35-13:00)

3. 基礎からの静的・動的散乱とX線小角散乱

静的・動的散乱とX線小角散乱を、コロイド、高分子、界面活性剤集合体等に用いる上で必要となる基本原理について、高校までの知識で理解できるよう平易に解説する。

首都大学東京 加藤 直氏 13:00~14:00

4. 散乱解析を用いた界面活性剤分子集合体の状態と製品開発へ応用

散乱技術はコロイド次元の大きさをもつ分子集合体の構造特性を捉えることが可能であり、特に溶液中の会合状態に関する情報を得ることができる。今回本技術の有用性について分光学的視点も加え、実用例をもとに議論する。

ライオン株式会社 小倉 卓氏 14:05~15:05

5. 装置メーカーによる装置紹介

① 表面・界面張力計の紹介と測定例

昨今、浸透性・界面活性剤の評価、また時間で変化する液体の評価などに静的・動的な表面張力の測定が有効とされている。本講座では当社の表面・界面張力計の紹介とともに、その測定例について述べる予定である。

協和界面科学株式会社 平野 大輔 氏 15:10～15:40

② 実験室系装置：BioSAXS-2000 による小角散乱

BioSAXS-2000 は、既存の微小焦点回転対陰極型発生装置を含む様々な X 線源と組み合わせることができる X 線小角散乱装置です。セミナーでは、BioSAXS-2000 の装置構成と測定例をご紹介します。

株式会社リガク 松本 崇 氏 15:45～16:15

質問タイム 16:15～17:00

第2日 7月14日(金)

6. 乳化と可溶化を使いこなすための基本的な考え方

製剤化でしばしば必要とされる「乳化」と「可溶化」。この2つのキーワードが意味する基本的な理論と現象を本講演では解説します。

千葉科学大学 山下 裕司 氏 9:30～10:30

7. 分散・凝集を理解するためのゼータ電位

微粒子の分散・凝集の基本的枠組みを与える DLVO 理論とゼータ電位の関係について解説します。凝集・分散を支配する因子は何か、ゼータ電位とは何か、これらの問いについて実験結果の考察を交えて考えます。

筑波大学大学院 小林 幹佳 氏 10:35～11:35

質問タイム 11:35～12:05 (昼食・休憩 11:35～13:00)

8. レオロジーによる分散・凝集の理解に向けての線形粘弾性入門

粒径のそろった球形粒子が、液体中に凝集することなく分散した単純な懸濁液でさえも、粒子のブラウン運動が原因の粘弾性挙動が明瞭に観察される。その粘弾性の本質を理解するための基本となる線形粘弾性論を解説する。

東京農工大学大学院 四方 俊幸 氏 13:00～14:00

9. 相平衡図を用いた乳化化粧品の価値づくり

乳化・可溶化系化粧品の価値づくりに際しては、水や油の配合目的に応じた最適なマイクロ状態の実現が重要である。相平衡図を活用すれば、やみくもな試行錯誤に陥ることなく基剤を構築できる。このような視点から開発事例を紹介する。

株式会社資生堂 渡辺 啓 氏 14:05～15:05

10. 装置メーカーによる装置紹介

① 回転型レオメータによるレオロジー特性の評価例

回転型レオメータによる乳液などエマルジョンサンプルの分散特性、複雑な流動特性の評価事例と新たに光学測定を組み合わせたマイクロ・マクロ構造同時評価オプションを用いた測定例を紹介する。

アントンパール・ジャパン 宮本 圭介 氏 15:10～15:40

② ゼータ電位・粒径・分子量測定システム ELSZ-2000 に関する製品紹介

光散乱法を用いてゼータ電位・粒径・分子量が測定できる ELSZ-2000 について、測定原理やアプリケーションなどを中心にご紹介します。

大塚電子株式会社 田中 克治 氏 15:45～16:15

参加費 テキスト代込み

参考書：「界面活性剤評価・試験法」(日本油化学会編 第二版)を配布いたします。

(単位:円)

	1名	2名	3名	1名増毎
本会正会員 (個人会員)	20,000	—	—	—
本会法人会員 (一括申込に限り)	24,000	36,000	48,000	+12,000
★ 会員以外の方	40,000	—	—	—
学 生	6,000	—	—	—

★ 会員以外の方は申込時に本会にご入会されますと、会員参加費となり、更に毎月、会員誌『オレオサイエンス』が送付されます。(正会員会費 9,000円, 入会費 無料)

募集人員 80名 (定員になり次第締め切ります)

申込締切 7月6日(火)

申込先 公益社団法人日本油化学会 Fax: 03-3271-7464 E-mail: y-kubo@jocs-office.or.jp

申込方法 申込書に所要事項をご記入のうえ、Faxまたはe-mailにて申し込み、参加費を送金ください。なお、送金手数料はご負担ください。

送金先：三菱東京UFJ銀行 八重洲通支店・普通 1057794 公益社団法人日本油化学会

界面実践講座 2017 参加申込書		
氏名	ふりがな ()	会員No.
勤務先		
連絡先	〒 Tel: Fax: E-mail:	
参加費 (○印)	本会正会員 20,000円 本会法人会員 (参加 名) ()円 会員以外の方 40,000円 学 生 6,000円	送金予定: その他事項: